

1999年1月1日

'99の正月も裏磐梯のバイトで始まった。と、いっても年末からずううっとバイトだったんだけど。それでも元旦の朝はああ、新しい朝がきたあ、という気分だった。暮れから続いた降雪で白い世界。7時ごろ、初日の出をみようとして雨戸を開けたら、ひっ、ほっ、とかすかな鳥の声。ウソだ。おお、オスもメスも、全部で10羽はいるかな。初鳥見がウソとは、こいつは春から縁起がいいやあ、てなもんです。(まき)

1999年1月30日

暖冬かどうかだなんて、冬が終わるまでわからないことだけど、1月に雨が降るってのはうれしくない。

1月上旬までにしっかり雪が積もったから白い世界はびくともしないが、除雪する道路はアスファルトが出ている。路線バスのチェーンもとれている。

ワカサギ釣りの始まっている桧原湖の氷、ゆるまないでおくれ、私はまだ今冬、その氷上をクロカンで渡っていない。

しかし寒波の再来を心待ちにするなんて、私も変わったな。寒いのが好き。(まき)

1999年3月29日

暖かい日が続く雪もどんどん溶け、ふきのとうも顔を出し始めたのでいよいよ春だ！

と、思っていたらまた一面の雪景色になってしまいました。

でもこれでツアーが少し永く出来ると思うとついつい顔が“えへへへ”になってしまいます。(モク)

1999年3月31日

3月31日、ポタン雪。

3月中旬は雨降ったり晴れて気温が上がったり、フキノトウが咲くは、トリはさえずるは、桧原湖は溶けるは、アオサギが戻るは、カエルは産卵するはで、もうこのまま春になってしまうのかあ、と淋しくなっていました。

冬が去っていくのが淋しいなんて、裏磐梯に住み始めた時には思いもしなかったなあ。

初めの冬は、冬じゅう雪があることに圧迫感を覚えていたから(私は埼玉生まれです)。

降り続く雪をみて笑っている3度目の冬です。(まき)

1999年4月18日

もくもくスタッフと常連の人たちでキャンプにやってきた。

標高800mの裏磐梯はほとんど雪がないけど、尾瀬近いここはまだ雪山。

会津駒ヶ岳に登る。半月ぶりにスキーをはいた。

天気上々、山頂からは白い燧ヶ岳、至仏山、平が岳の展望。そりゃもうサイコー。

しかし、下り、はじめての滑落。

ケガしなかったけど、同行者には心配かけてしまった。すいません。

でも行ってよかった。自分の身のほどと、メンバーの頼りがいがわかったから。(まき)

1999年4月27日

この冬、もくもくにオーストラリアからのお客さんが泊まっていた。クロカンを楽しみながらバードウォッチングもしている人だったので、「フィールドガイド 日本の野鳥」を持ってって話そうと思った。

「オウ!私もこの本、持ってます!」

そう、この本は英語版も出ている。

で、夏になると裏磐梯に渡ってくるオオジシギのことを聞いてみた。

「はい、オーストラリアではマングローブにいます」

4月20日の晩、桧原湖のヨシ原でオオジシギの声をききました。長旅お疲れさま。(まき)

1999年5月13日

陽射しは夏。だが猫魔ヶ岳は冬の顔をしていた。雄国沼へ下るにつれ、木々の葉が開きはじめていた。

沢にはミズバショウ、リュウキンカ。湿原にはタテヤマリンドウ。

雄子沢ルートは更に標高を下げていく。陽に透けてやわらかな黄緑のブナ。時々オオヤマザクラのピンクが混じる。沢の対岸に名もない滝が見えた。登山者の両側を縁取るニリンソウの群落に会う。思わず声が出るみごとさ。このコースの魅力はニッコウキスゲの時期に限らない!(まき)

1999年5月20日

朝から小雨。それでも蛇平の4人(私も含む)は安達太良を目指した。

箕輪スキー場下の登山口から上る。

タムシバ咲くブナ林。エゾハルゼミの抜け殻も幹についていた。だが登山道のえぐれが激しくなり、足元ドロドロ、霧雨と強風、箕輪山頂が近づくにつれハードな山行となる。予定変更、鬼面山へ。突然雪原を歩くハメになったり、飛ぶトリもふっとばされる風の中、岩にしがみついて下る。雲間にみえた福島盆地は晴れていた。下山口の野地温泉はサイコー。このコースおすすめです。(まき)

1999年5月28日

中津川から秋元湖をガイドしてきた池田君が、ミズナラの枝に果物のようなものが付いているのを見つけ、清水さんはそれをかじってみました。

私は、「これ何?」と尋ねられて分からず、人に聞きまくった所、ナラリンゴタマバチが、ミズナラに卵を産みつけて、その時に植物を肥大させてなかでかえった幼虫がそれを食べて成虫になる“虫こぶ”と判明。

地元の60代の方々は子供の頃、“リンゴ”と呼んで食べてたそう。

すえみさんと歩いてたら、もくもくの近所にも、これありました。(まき)



1999年6月20日

梅雨です。急ぎの仕事もないので、ずっと家の中にいました。そんな3日目に、近所の人から電話で誘われて、フキ採りに出ました。

雨降りなのでカッパを着て長ぐつで。採り出せば、か細い雨なぞものともしません。

帰りに茶色い毛のウサギも見られて、表には出るもんだと思いました。

夕方、フキの皮をむいて、ゆがくこと30分。翌朝まで水につけておいて、朝起きていちばんにフキを油いため。6月19日にあそびにきた友人に「おいしい」といわれて、うれしい私です。(まき)

1999年6月30日

6月28日から草刈りのバイトをしています。

刈り払い機って知ってますか? ガソリンを燃料にして、長い棒の先につけた丸いノコギリを回転させ、草を刈っていきます。私の使っている刃はチップソーというタイプで、刃が丸板のへりにチョンチョン付いています。

現場は岩が多く、しかも草に隠れてます。U字溝のコンクリートの近くとか、アスファルトのへりもやります。こーゆーとこで使うと一日でチップは飛びちる。音もすごいです。火花もでる。(まき)

10月4日から6日、飯豊山に行ってきました。磐梯山から、雄国山から、デコの遊歩道から喜多方へ行く道から、いろんな所から雪をいただいたその山姿は見ていたものの、歩くのははじめてで、それだけでもうれしい。

山都町の川入から登り、ブナの森を抜けていく。三国岳の手前に岩稜・くさり場。えっ、飯豊ってこういう山なのっ。泊まる小屋へ着くまでにもくさり場。翌日飯豊本山へ行くにも“御秘所”と言う名前のくさり場。帰路も同じだったので、3回びびった私。天気は割とめぐまれて、飯豊からの磐梯山も見られました。紅葉も美しかった。(まき)

1999年10月27日

土湯峠を越えて、福島市に買い物に行きました。夕方、ようよう峠を越え、猪苗代町まで戻ってきた。

稲穂かがやく田んぼが出てくしゃ、もう自分の生活圏内に入ったようなもの。その時、車から白い煙が上がり、バチッと音がして減速しました。やばい、爆発するのか？ハラハラしつつ、路肩に寄せて止める。てくてく歩いてドライブインからJAFに電話。

日は落ちて、まっ暗。Tモーターズさんが来た。「エンジンだめだね。廃車かね～」、私は修理をお願いして、猪苗代から裏磐梯まで歩いて帰った。車で20分、歩けば3時間。

10月だというのに、道端にたくさんホテルが光っていた。(まき)

1999年11月10日

村の企画で桧原湖の西の山の尾根から北側の湖畔を散策した。私はスエミさんに誘ってもらって参加した。

風が弱く天気もよく、野鳥の森の展望台からは裏磐梯のひろがりや、安達太良山や西大巔がくっきりみわたせた。頂上は霧氷だ。

すっかり落葉した森は展望がきいてよかったし、足元の大量の落葉をまきあげてスエミさんは喜々としていた。ねっころがるとフカフカで気持ちよかった。

桧原湖北岸のとりにいは磐梯山の噴火で湖に沈んだ村のものだ。湖の水位が上がってくるたびに高い方へ3回くらい移されてるそうだ。歴史やなあ。(まき)



1999年11月19日

しし座流星群の頃は、天気が良くないことを発見しました。去年も雲って見られなかったし、今年も夜11:00から2:00まで起きていたのですが、東の空はついに晴れませんでした。TVや人の話では、1時間に何10個も流れるそうですが、私は未だ1つも見ていません。24日頃まで、観測できるそうだからもうしばらく夜空をみあげていよう。

そうそう、星は降らなかったけど、11月17日に初雪が降りました。一進一退で冬が近づいています。(まき)

1999年12月11日

東京の五日市にいます。あったか～い。紅葉も今が盛り。

昨日、裏磐梯を出た時も晴れていましたが、雪がつもってたし、土湯沢の温度表示も3℃くらいでした。裏磐梯の紅葉、今年は11月3日頃がピークだったから、1ヶ月以上もこの辺より早いんだな。

冬がいちばん、他の土地との差を感じます。もうスキーもできますよ。

そうだ、昨日、バスがなくて五色沼から土湯沢すぎまで歩いて下ってたら、猫魔スキー場のおじさんにひろってもらいました。長坂あたりで前を走る車に合図して止めると、「あの人、猪苗代へ行くから、のせてもらいな」と、突然ヒッチハイクリレーになりました。2人のおじさん、ありがとう。(まき)

1999年12月30日

12月10日まで10cmくらいの雪だったのに、ちょっと出かけて14日に帰ってきたら、更に積もって20cmくらいになっていた。

出先が関東だったのでフツの靴だから、家に入るのに足がぬれた。ドアをあける前に雪かきをしなければならなかった。

16日から雪が続いて、20日には70cmくらいになった。けれど雪がふかふかなので、まだクロカンの板ははいていない。

どうしたってんだ、この冬は。大雪になるのかな。

遅ればせながら、18日にタイヤ交換。手伝ってもらいながらだったけど、自分でできた。うれしい。

走っている最中にタイヤが転がっていかないよう、祈る。(まき)